

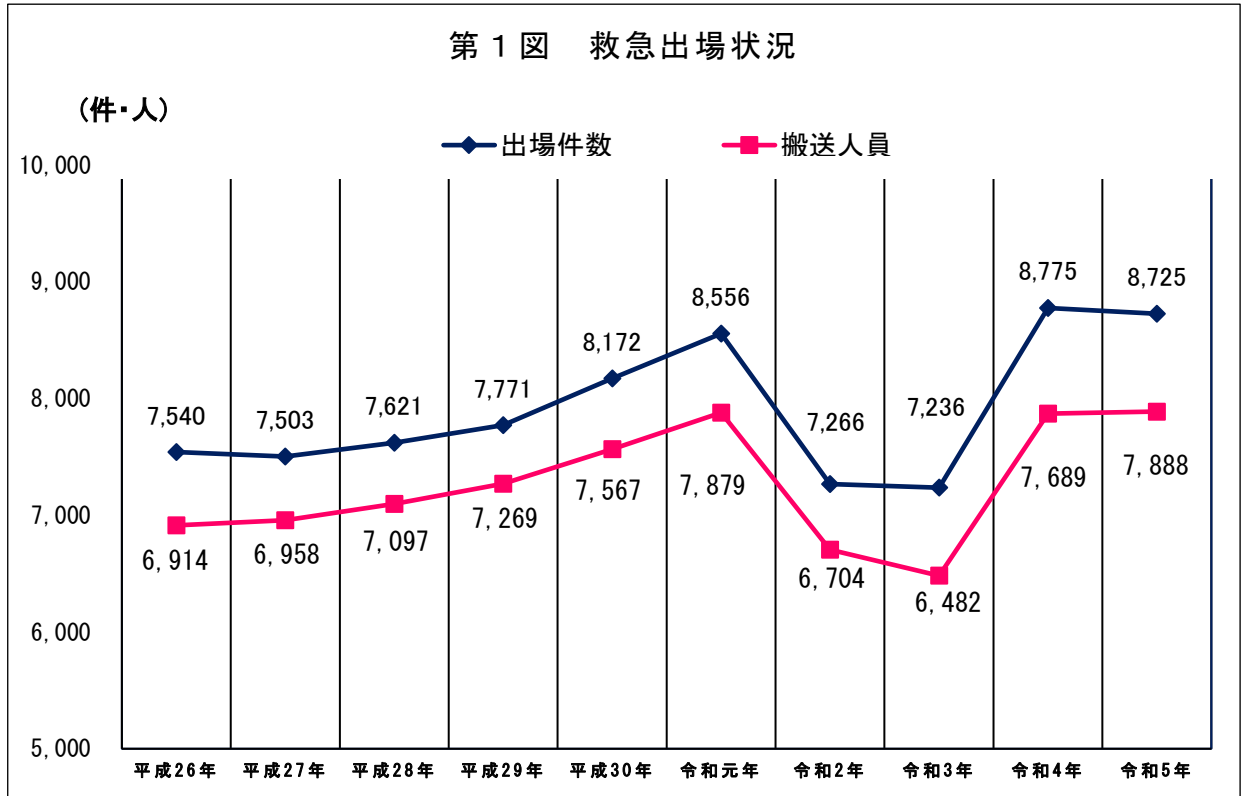
# 令和5年上半期（1月～6月）における救急概況

※ 本統計中の全ての表・図における合計値は、端数処理の関係で100%とにならない場合があります。

## 1 救急出場状況

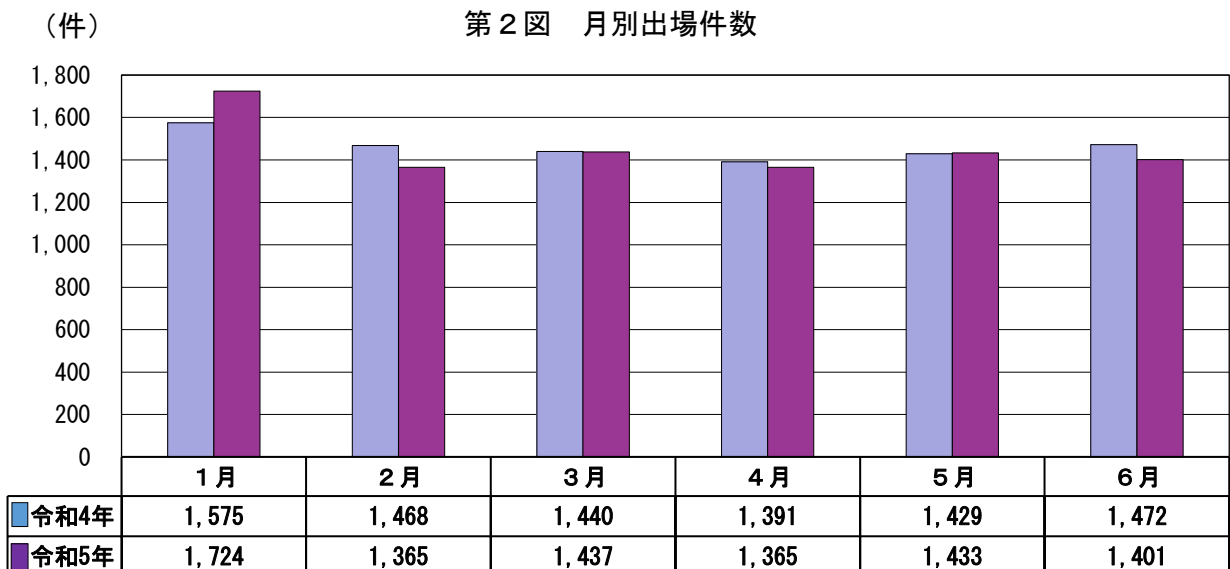
令和5年上半期の救急出場件数は8,725件で、前年同期と比べて50件減少している。これは、1日平均48件（30分に1件）の割合で救急車が出場していることになる。

搬送人員は7,888人で、前年同期と比べて199人増加している。（第1図）



## 2 月別出場件数

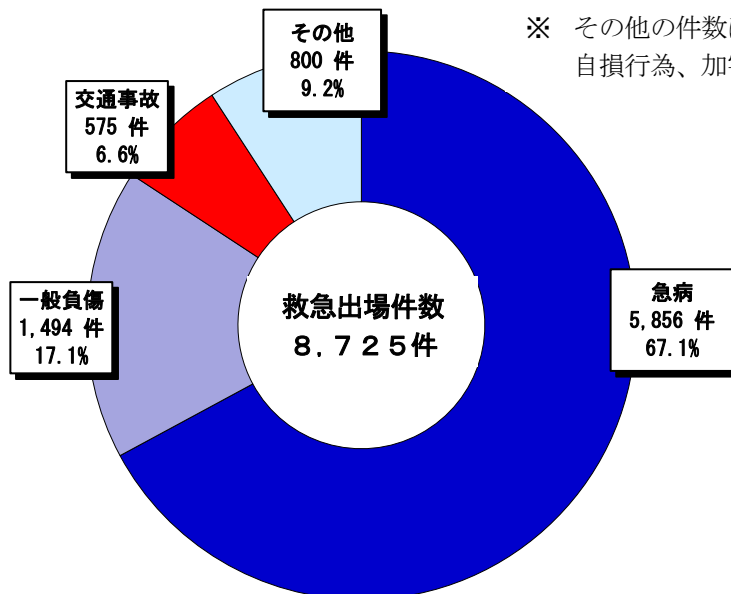
救急出場件数を月別で見ると、1月が1,724件で最も多く、次いで3月が1,437件、5月が1,433件の順となっている。（第2図）



### 3 事故別出場状況

救急出場件数を事故種別ごとにみると、急病が5,856件、一般負傷が1,494件、交通事故が575件の順となり、これら3種別で全体の91%を占めている。(第3図)

第3図 事故別出場状況

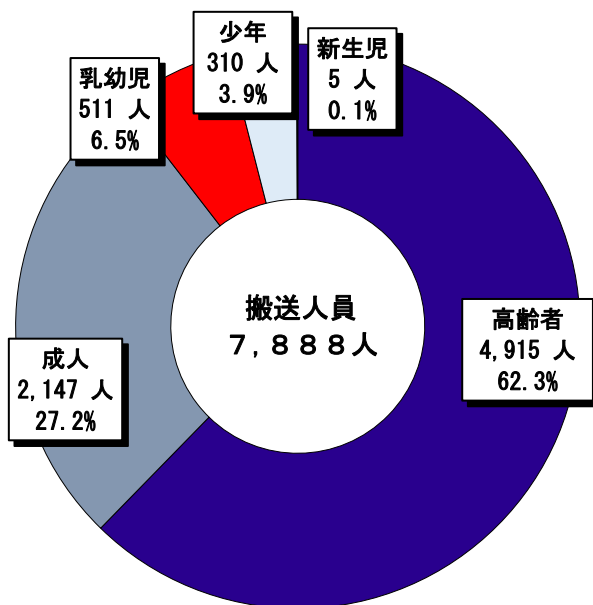


※ その他の件数は、転院搬送、労働災害、自損行為、加害等の合計である。

### 4 年齢区分別搬送状況

搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が4,915人で全体の62%を占めており、成人が2,147人、乳幼児が511人、少年が310人、新生児が5人の順となっている。(第4図) (注1)

第4図 年齢区分別搬送状況



(注1)  
新生児：生後28日以下  
乳幼児：生後29日以上6歳以下  
少年：7歳以上17歳以下  
成人：18歳以上64歳以下  
高齢者：65歳以上

## 5 診療科目及び管内外別搬送状況

搬送人員を診療科目別にみると、内科が2,197人、脳神経外科が1,288人、整形外科が1,189人、の順となっている。

搬送先医療機関については、全体の70%を市内へ、30%を市外へ搬送している。  
(第1表)

第1表 診療科目及び管内外別搬送人員

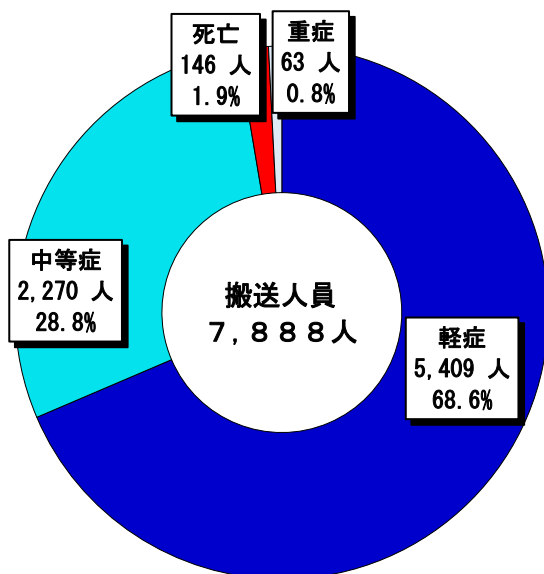
	八尾市内	八尾市外	合計(人)
内科	1,682	515	2,197
循環器科	449	188	637
呼吸器科	549	236	785
小児科	191	326	517
外科	143	101	244
整形外科	926	263	1,189
脳神経外科	866	422	1,288
産婦人科	17	36	53
泌尿器科	82	38	120
神経内科	528	151	679
その他	98	81	179
合計	5,531	2,357	7,888

※上記表中の「その他」とは、上記診療科目以外の全てのものをいう。

## 6 傷病程度別搬送人員状況

搬送人員の内訳を傷病程度別にみると、軽症が5,409人、中等症が2,270人、重症が63人などとなっている。(第5図)(注2)

第5図 傷病程度別搬送人員状況



(注2)

死亡：初診時に死亡が確認されたもの  
重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの  
中等症：傷病の程度が重症または軽症以外のもの  
軽症：傷病の程度が入院加療を要しないもの

## 7 応急手当の普及啓発活動

救急車の要請から現場に到着するまでの時間は、上半期で約8.8分である。

救急車が現場に到着するまでの間、救急現場近くの住民等による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られる。

消防本部では心肺蘇生法の普及啓発活動を積極的に推進している。(第2表)

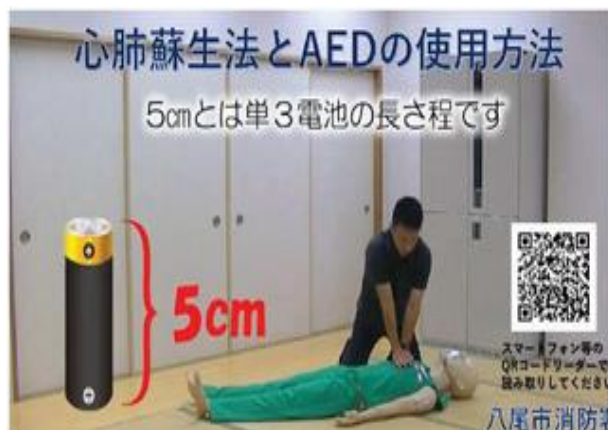
第2表 令和5年上半期普及啓発活動状況

区分 講習会名	開催回数 (回)	受講人数 (人)	講習内容
普通救命講習Ⅰ	12	201	心肺蘇生法・AED・止血法の3時間講習
普通救命講習Ⅱ	0	0	普通救命講習Ⅰの内容に実技試験及び筆記試験を加えた4時間講習
普通救命講習Ⅲ	3	63	心肺蘇生法(主に小児・乳児・新生児)・AED・止血法の3時間講習
上級救命講習	1	13	普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生法、外傷の手当法の訓練を実施した後、実技試験及び筆記試験を行う8時間講習
応急手当訓練	45	1,870	3時間に満たない心肺蘇生法・AED・止血法の講習
計	61	2,147	

### <参考>

消防本部では、ご自宅や仕事場でも応急手当を学んでいただけるよう、動画「WEB自主防災(心肺蘇生法とAEDの使用法)」を作成し、YouTube 八尾市公式チャンネルで公開しています。

【動画イメージ】



【動画QRコード】

